

# 研修医の近況報告

## 地域医療の最前線で

尾鷲総合病院 内科

栗原 真行 (26期生)

皆さん、こんにちは。私は卒業後、三重県で奉職しています。初期研修は松阪市民病院で、その後昨年4月からは尾鷲総合病院の内科に勤務しています。

私は、北海道出身で、三重県には地縁血縁はありませんが、琉大在学中に修学資金を受けていたことから、卒後一定期間を県内で勤務する約束をしています。

三重県に決めたのは、地元出身でなくても、他県の大学でも資金を出してくれる数少ない自治体だったからです。北海道開拓の父ともいえる松浦武四郎の出身地(松阪市三雲町)であり、大学に入る前の勤務先(建設省、国土交通省)で担当していたリゾート開発プロジェクト「三重サンベルトゾーン」などで縁があったのも理由です。2014年に行われた伊勢神宮の式年遷宮や2016年5月に開かれる伊勢志摩サミットなどでますますの発展が期待されています。

現在勤務している尾鷲総合病院は、この地域の唯一の総合病院として、様々な疾患をかかえる患者さんが受診します。このため、脳血管障害や心不全などの疾患でも、すぐ専門科に紹介するのではなく、可能な範囲で診療しなければなりません。もちろん、血液内科など専門医のいない疾患については他院に紹介することになりますが、自分で診る範囲が広いことには変わりありません。現在、入院患者を平均15人、外来を1日、日中の救急を1日半、日当直を平均月1回、オンコールを月数回担当しています。255床の病院に常勤医が十数人という状況で、勤務は大変ですが、地域医療の第一線で、いろいろなことが経験できるというメリットは大きいと思います。

尾鷲市は、海と山に囲まれているのが魅力です。私はどちらかというと山が好きですが、熊野古道伊勢路(伊勢〜新宮・本宮)の核心である美しい石畳のある馬越峠(325m)、八鬼山峠(627m)や市街地の背後にある天狗倉山(522m)、便石山(599m)、高峰山(1,045m)さらには三重県の最高峰大台ヶ原山(1,695m)にも歩

いて行くことができます。大台ヶ原、尾鷲は雨が多いという印象がありますが、降水量は多くても、晴れの日が少ないわけではありません。

この美しい地域の皆さんに、少しでも役立てていただけるよう、精進していきたいと思います。

## 〜後期研修が始まって〜

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

野崎 拓朗 (27期生)



卒業生、在校生、並びに在校生の保護者の皆さまこんにちは。琉球大学医学部27期卒の野崎拓朗と申します。私は卒業後、沖縄県立南部医療センター・こども医療センターで初期研修を開始し、今年の3月に終

了しました。4月から同じ病院の小児科にて後期研修を開始しました。今回はご指名いただき近況報告をさせていただきます。

私が研修を行っている県立南部医療センター・こども医療センターの小児科は、新生児科、総合診療科、神経科、循環器科、腎臓科、血液・腫瘍科などの各専門科が設置され、私たち後期研修医は各科を2年かけて回っていきます。各科の研修中はその専門科の疾患を学び病棟を任されることはもちろんですが、その子たちが体調をくずして救急外来を受診した際の対応や処置についても学んでいます。また専門的な疾患のみならず、救急室を受診する基礎疾患のない子たちの肺炎や気管支喘息発作などの一般的な疾患についても診断と治療について指導医と相談しながらですが受けもっています。

また、後期研修医になってからは週に1回新患外来を行い、初期研修医の時の救急外来とは違い、慢性咳嗽や慢性下痢などの近医からの紹介や乳幼児健診からの紹介などの一筋縄ではいかないような患者さんの診察と診断・治療を担当しています。この新患外来は、事前に鑑別疾患を考え、診察し、検査を組み立て、診断に至るまでの流れを指導医とともに考えます。将来小児科医を目指す私にとって、とても重要な場となっています。2か月に1回程度ですが、市町村の乳児健診にも参加して正常な乳児を診ることも大切な研修となっています。

後期研修が始まってからまだ半年ですが、責任も重くなり、仕事量も増えていますが、自分の進みたい道なので楽しく精一杯頑張ってやっています。



地元の新聞に載りました (ネットで閲覧できます)



大台ヶ原に向かう途中で (背後に尾鷲の山が見えます)